

= 総量削減義務と排出量取引制度 =

東京都 特定テナント省エネ評価 通知書【2021年度実績版】

● 評価結果

貴事業所の総合評価は

AA

です

達成度



※ S・AAA : ★★★★★ AA : ★★★★★ A : ★★★★★ B : ★★★★★ C : ★

● 事業者概要

特定テナント等事業者の名称	株式会社●●通信		
特定テナント等事業所の名称	指定地球温暖化対策事業所の名称		
■■ビル事業所	■■ビル		
特定テナント等事業所の業種	情報通信	指定地球温暖化対策事業所の番号	0000

① 総合評価 (DC版)

①-1 総合評価における点数内訳

総合評価

79 点

=

② 排出実績評価

30 点

+

③ 点検表評価

49 点

次の評価区分 (AAA) まで

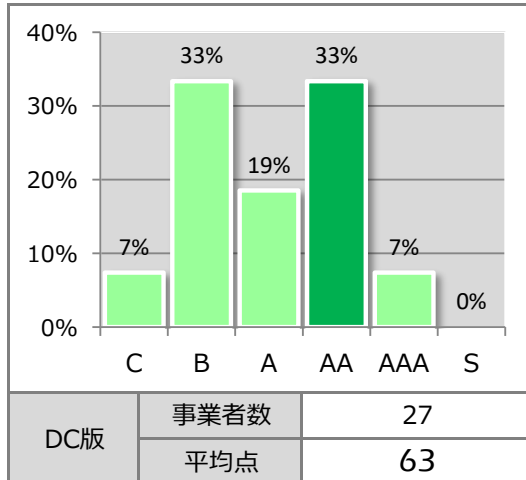
あと 1 点

※ ②排出実績評価 30点: ★★★★★ 25・20点: ★★★★★ 15点: ★★★★★ 10・5点: ★★★★★ 0点: ★

※ ③点検表評価 70～57点: ★★★★★ 56～43点: ★★★★★ 42～29点: ★★★★★ 28～15点: ★★★★★ 14～0点: ★

①-2 総合評価の傾向

ア 同一点検表利用における評価傾向 【DC版】



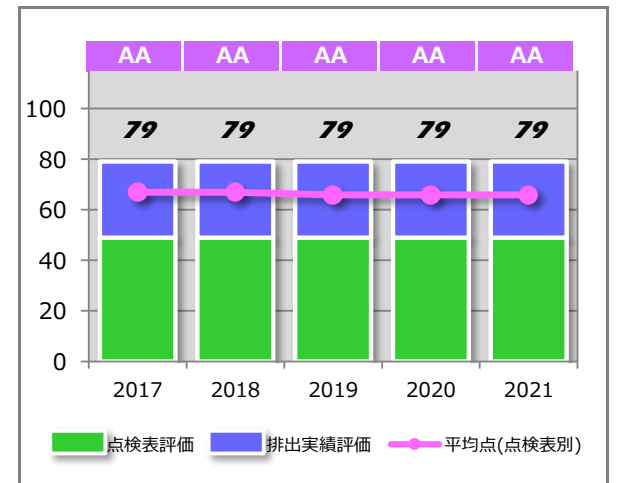
S
90点以上
AAA
80点以上
AA
70点以上
A
60点以上
B
40点以上
C
40点未満

イ 同一業種における評価傾向 【情報通信】

ア 同一点検表利用と同内容となります。

①-3 評価点の推移

貴事業所における評価点の推移 (直近5か年度) 【DC版】



■ : 貴事業所における評価

② 排出実績評価



※ 30点：★★★★★ 25・20点：★★★★ 15点：★★★ 10・5点：★★ 0点：★

②-1 温室効果ガス排出実績

貴事業所の基準年度※2： 2011年度

	基準年度※2 2011年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
特定温室効果ガス 〔t-CO ₂ 〕	8,470	6,300	6,200	-	-	-
原単位※1 〔kg/m ² ・年〕	1,050	797.5	780.0	-	-	-

※1 原単位：延べ面積当たり特定温室効果ガス年度排出量 ※2 基準年度：特定テナント等事業者が、比較対象として設定した年度

②-2 評価の詳細〔対基準年度比の温室効果ガス削減状況〕

■ 特定温室効果ガスの変化

基準年度	2011年度	8,470	t-CO ₂
当該年度	2021年度	6,200	t-CO ₂

26.8% 削減

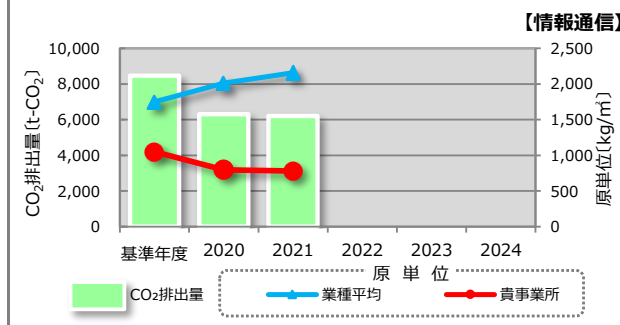
■ 原単位の変化

基準年度	2011年度	1,050	kg/m ²
当該年度	2021年度	780.0	kg/m ²

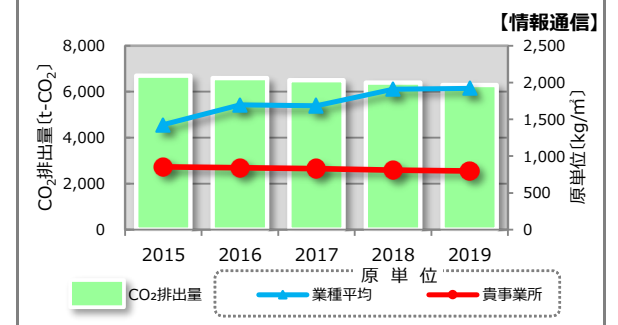
25.7% 削減 無

原単位による
評価補正：

■ 評価基準 30点：削減率20%以上 25点：削減率10%以上～20%未満 20点：削減率10%未満
10点：増加率10%未満 5点：増加率10%以上～20%未満 0点：増加率20%以上

②-3 排出実績の推移（CO₂排出量と原単位）

《参考》第2計画期間における排出実績の推移

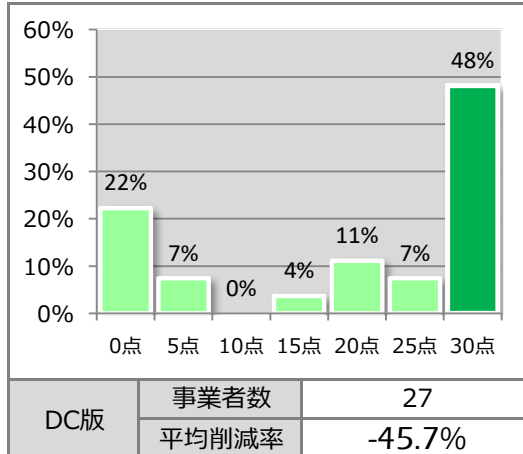


※ 第2計画期間に排出実績がない場合は、業種平均原単位のみが表示されます。

②-4 排出実績評価の傾向

ア 同一点検表利用における評価傾向

【DC版】



30点	20%以上削減
25点	10%以上削減
20点	0%以上削減
15点	増減なし
10点	0%以上増加
5点	10%以上増加
0点	20%以上増加

イ 同一業種における評価傾向

【情報通信】

《参考》業種平均原単位との比較

〔単位：kg/m²・年〕

業種平均原単位	2,157	→	原単位差	1,377 低い
貴事業所原単位	780.0			

※ 原単位差が低いと、使用床面積の規模に係らず、同一業種の中でも排出量が少ない事業所であることを意味します。

★ 全体傾向及び業種傾向の解説

6割以上の事業所が排出量を削減しており、4割以上の事業所が基準年度比で20%以上の削減を実施しています。貴事業所は、排出量の削減が出来ています。生産数量又は建物床面積その他エネルギーと密接な関係を持つ値の増減を加味し、エネルギー消費原単位についても悪化しないよう努めましょう。

：貴事業所における評価

ア 同一点検表利用と同内容となります。

● 点検表評価 結果

貴事業所の点検表評価は

49 点 です

達成度



※ 70～57点：★★★★★ 56～43点：★★★★☆ 42～29点：★★★☆☆ 28～15点：★★☆☆☆ 14～0点：★☆☆☆☆

■ レーダーチャートの凡例・項目

《凡例》

《項目》

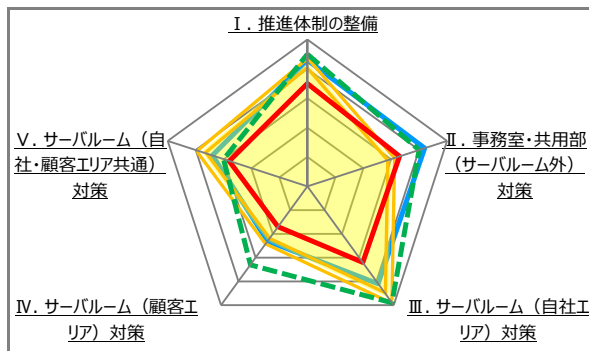
- : 貴事業所 I. 推進体制の整備 : 点検表No.01～06
■ : 貴事業所(前年度実績) II. 事務室・共用部（サーバルーム外）対策 : 点検表No.07～11
■ : 平均 III. サーバルーム（自社エリア）対策 : 点検表No.12～17
■ : 直近上位平均* IV. サーバルーム（顧客エリア）対策 : 点検表No.18～22
V. サーバルーム（自社・顧客エリア共通）対策 : 点検表No.23～30

*直近上位：貴事業所の直近上位である評価区分の平均を表示
 (但し、最上位区分は上位1%の事業所の平均、B・C及び評価対象外の場合はA区分平均を表示)

③-1 点検表から見た貴事業所における省エネ対策・体制の特徴

ア 同一点検表利用における特徴

【DC版】



貴事業所は直近上位平均(AAA)と比較して、以下のような特徴が見られます。

- I. 推進体制の整備：平均的です。
 II. 事務室・共用部（サーバルーム外）対策：改善の余地があります。
 III. サーバルーム（自社エリア）対策：平均的です。
 IV. サーバルーム（顧客エリア）対策：改善の余地があります。
 V. サーバルーム（自社・顧客エリア共通）対策：省エネ対策が進んでいます。

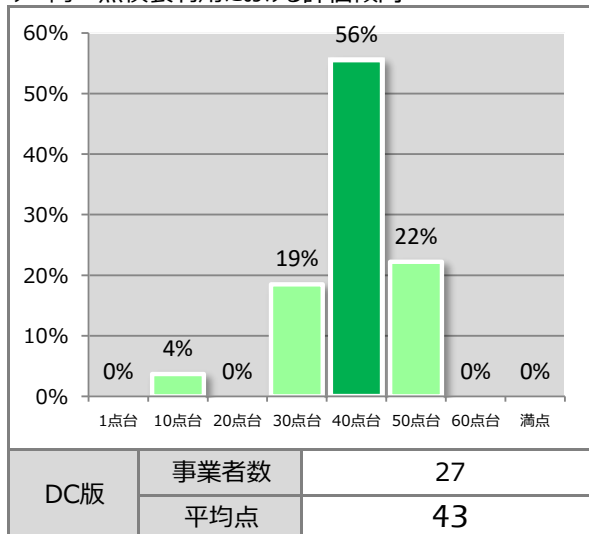
ア 同一点検表利用と同内容となります。

点検表の各項目別の取組状況・傾向は次頁以降を参照ください。

③-2 点検表評価の傾向

ア 同一点検表利用における評価傾向

【DC版】



イ 同一業種における評価傾向

【情報通信】

★全体傾向及び業種傾向の解説

点検表の得点の平均点は43点であり、7割以上の事業所が40点以上を獲得しています。

貴事業所は、平均的に省エネ対策が進んでいる事業所です。さらに得点を獲得するために、③-1を参考に未実施の対策の実施率をあげていきましょう。

ア 同一点検表利用と同内容となります。

■ : 貴事業所における評価

■ 推進体制の整備

No.1 組織体制の整備【テナント事業者の推進体制の整備】

自らの事業所内に省エネ対策の推進体制（CO₂削減推進会議）を整備しているか

貴事業所	直近上位	全事業所
------	------	------

1. 整備している	■	92%
0. 整備していない	■	7%



No.2 組織体制の整備【テナント事業者の推進体制の整備】

役員クラスが推進体制（CO₂削減推進会議）の責任者になっているか

貴事業所	直近上位	全事業所
------	------	------

1. なっている	■	92%
0. なっていない	■	7%



No.3 組織体制の整備【テナント事業者の推進体制の整備】

自らの事業所内の推進体制（CO₂削減推進会議）をどの程度の頻度で実施しているか

貴事業所	直近上位	全事業所
------	------	------

2. 四半期に1回以上	■	29%
1. 年1回以上	■	59%
0. 実施無し	■	11%



* 直近上位欄：貴事業所の直近上位である評価区分（AAA）の最多回答を表示（但し、最上位区分は上位1%、B・C及び評価対象外の場合はA区分を表示）

No.4 組織体制の整備【PDCA管理サイクルの実施体制の整備】

PDCA管理サイクル（計画・実施・確認・処置）の実施体制をどの程度整備しているか

貴事業所	直近上位	全事業所
------	------	------

4. 全て整備	■	55%
3. 計画・実施・確認のみ	■	19%
2. 計画・実施のみ	■	7%
1. 計画のみ	■	7%
0. 整備していない	■	11%



No.5 組織体制の整備【効果検証】

省エネ対策を実施した後、その効果の検証をどの程度実施しているか

貴事業所	直近上位	全事業所
------	------	------

4. 概ね100%	■	33%
3. 80%以上	■	22%
2. 50%以上	■	15%
1. 50%未満	■	7%
0. 実施無し	■	22%



No.6 組織体制の整備【オーナーの協力推進体制への参画】

オーナーが整備する協力体制に参画しているか

貴事業所	直近上位	全事業所
------	------	------

3. 毎月実施	■	11%
2. 四半期に1回以上	■	30%
1. 年1回以上	■	52%
0. 参画していない	■	7%



★推進体制の整備の傾向

No.1(省エネ対策推進体制の整備)、No.2(役員クラスの推進体制責任者)について、80%以上の事業所が実施しています。高い評価を獲得している事業所ほど、No.3(CO₂削減推進会議の実施)の実施率が高い傾向にあります。

■ 事務室・共用部（サバルーム外）対策

No.7 事務室・共用部【照度】

主な居室において、適正な照度を実現しているか

貴事業所	直近上位	全事業所
------	------	------

1. 500Lx以下	■	59%
0. 750Lx程度	■	41%
-1. 1000Lx以上又は把握していない	■	0%



No.8 事務室・共用部【高効率照明器具の導入】

ベース照明について、高効率化しているか

貴事業所	直近上位	全事業所
------	------	------

4. 80%以上でLED化	■	48%
3. 50%以上でLED化	■	4%
2. 80%以上でHf化	■	41%
1. 高効率化していないが、オーナーに提案	■	4%
0. 高効率化していない又は把握していない	■	4%



■ 事務室・共用部（サーバールーム外）対策

特定テナント等事業者名：株式会社●●通信

No.9 事務室・共用部【居室の室内温度の適正化】

主な居室において、夏季の「実際の室内温度」を何度にしているか

貴事業所	直近上位	全事業所
3. 27度（以上含む）		44%
2. 26度		41%
1. 26度未満		11%
0. 把握していない		4%



No.10 事務室・共用部【電気設備の導入】

400V配電方式又は直流配電方式を導入しているか

貴事業所	直近上位	全事業所
1. 導入している		77%
0. 導入していない		22%



★事務室・共用部（サーバールーム外）対策の傾向

No.10(400V配電方式又は直流配電方式の導入)について、60%以上の事業所が実施しています。高い評価を獲得している事業所ほど、No.7(適正な照度)の実施率が高い傾向にあります。

No.11 事務室・共用部【電気室の温度管理】

電気室の室内温度の適正化（30℃以上）を、全電気室数に対して、どの程度の割合で実施しているか

貴事業所	直近上位	全事業所
2. 概ね100%		11%
1. 50%以上		30%
0. 実施無し又は把握していない		59%



■ サーバールーム（自社エリア）対策

No.12 サーバ（自社）【全体事項】

サーバ機器の選定、ラックの種類及び配置、ケーブル施工等についての明確な基準があり、それに基づきサーバールームを管理・運営しているか

貴事業所	直近上位	全事業所
2. ガイドラインを作成するなど基準を明文化し対応している		40%
1. サーバ機器の選定など一部は基準がある		33%
0. 基準はない		4%
該当無、顧客サーバのみの運営		22%



No.13 サーバ（自社）【サーバ】

省エネ仕様のサーバ機器をどの程度の割合で導入しているか

【仕様例】：省電力プロセス搭載、高効率電源ユニット搭載、消費電力の小さい2.5インチHDD搭載、SSD搭載、効率的な排熱処理機能を有するサーバ

貴事業所	直近上位	全事業所
3. 概ね100%導入		14%
2. 80%以上導入		44%
1. 50%以上導入		15%
0. 50%未満又は把握していない		4%
該当無、顧客サーバのみの運営		22%



No.14 サーバ（自社）【サーバ】

省エネの観点で、サーバ機器を集約化しているか

【取組例】：HDDの大容量化とディスク台数の削減、ブレードサーバ導入によるサーバ台数削減、仮想化技術によるサーバ設備の集約化と台数削減など

貴事業所	直近上位	全事業所
2. 取組例の複数（2つ以上）を導入		55%
1. 取組例の1つを導入		15%
0. 集約化していない		7%
該当無、顧客サーバのみの運営		22%
■. 2又は1を選択したが、具体的内容未記入（配点されません）		



No.15 サーバ（自社）【ケーブル類】

冷気の通風を確保するために、電源ケーブルやネットワークケーブルの長さを適正にし、配線を整理しているか

貴事業所	直近上位	全事業所
1. 整理している		77%
0. 整理していない		0%
該当無、顧客サーバのみの運営		22%



■ サーバルーム（自社エリア）対策

特定テナント等事業者名：株式会社●●通信

No.16 サーバ（自社）【冷暖分離】

熱だまり防止の観点から、ラックの開閉率を把握しているか

1. 把握している	貴事業所	直近上位	全事業所	74%
0. 把握していない				4%
該当無、顧客サーバのみの運営				22%



No.17 サーバ（自社）【冷暖分離】

サーバールーム及びラック内におけるホットアイルとコールドアイルを分離しているか

2. 全て分離している	貴事業所	直近上位	全事業所	55%
1. 一部分離している				19%
0. 分離していない				4%
該当無、顧客サーバのみの運営				22%



★サーバールーム（自社エリア）対策の傾向

No.15(ケーブル類の適正な長さ)、No.16(ラック開閉率の把握)について、60%以上の事業所が実施しています。高い評価を獲得している事業所ほど、No.12(サーバールームの運用管理基準)、No.14(サーバ機器の集約化)、No.17(ホットアイル・コールドアイルの分離)の実施率が高い傾向にあります。

■ サーバルーム（顧客エリア）対策

No.18 サーバ（顧客）【サーバ】

顧客に省エネ仕様のサーバ機器の導入を働きかけているか

[仕様例]：省電力プロセッサ搭載、高効率電源ユニット搭載、消費電力の小さい2.5インチHDD搭載、SSD搭載、効率的な排熱処理機能を有するサーバ

2. 1に加えて、導入割合を把握している	貴事業所	直近上位	全事業所	3%
1. 働きかけている				33%
0. 働きかけていない				41%
該当無、自社サーバのみの運営				22%



No.21 サーバ（顧客）【冷暖分離】

顧客のラック内にブランクパネルを設置するよう働きかけているか

3. 設置済	貴事業所	直近上位	全事業所	11%
2. ブランクパネルを貸し出して、設置を働きかけている				33%
1. 働きかけている				15%
0. 働きかけていない又は設置していない				19%
該当無、自社サーバのみの運営				22%



No.19 サーバ（顧客）【サーバ】

顧客に省エネの視点からサーバ機器の集約化を働きかけているか

[取組例]：HDDの大容量化とディスク台数の削減、ブレードサーバ導入によるサーバ台数削減、仮想化技術によるサーバ設備の集約化と台数削減など

2. 1に加えて、顧客の取組状況を把握している	貴事業所	直近上位	全事業所	3%
1. 働きかけている				41%
0. 働きかけていない				33%
該当無、自社サーバのみの運営				22%



No.22 サーバ（顧客）【冷暖分離】

サーバールーム及びラック内におけるホットアイルとコールドアイルを分離しているか

3. 契約事項に盛り込んでいる	貴事業所	直近上位	全事業所	7%
2. ガイドラインを提示し、働きかけている				44%
1. 働きかけている				26%
0. 働きかけていない				0%
該当無、自社サーバのみの運営				22%



No.20 サーバ（顧客）【ケーブル類】

冷気の通風を確保するために、電源ケーブルやネットワークケーブルの長さを適正にし、配線を整理するよう働きかけているか

3. 契約事項に盛り込んでいる	貴事業所	直近上位	全事業所	0%
2. ガイドラインを提示し、働きかけている				33%
1. 働きかけている				41%
0. 働きかけていない				4%
該当無、自社サーバのみの運営				22%



★サーバールーム（顧客エリア）対策の傾向

No.20(ケーブル類の適正な長さ)、No.22(ホットアイル・コールドアイルの分離)について、60%以上の事業所が働きかけています。高い評価を獲得している事業所ほど、No.18(省エネ仕様サーバ機器の導入)、No.19(サーバ機器の集約化)、No.21(ブランクパネル設置)の実施率が高い傾向にあります。

■ サーバルーム（自社・顧客エリア共通）対策

特定テナント等事業者名：株式会社●●通信

No.23 モニタリング【エネルギー使用量】

エネルギー使用量をどの程度の単位で把握しているか

	貴事業所	直近上位	全事業所
2. ラック単位			66%
1. 分電盤単位			30%
0. 把握していない			4%



No.24 モニタリング【PUE】

当該事業所のPUEを把握しているか

	貴事業所	直近上位	全事業所
1. 把握している			77%
0. 把握していない			22%



No.25 モニタリング【温熱環境】

サーバールーム内の温度やエアフローを把握しているか

	貴事業所	直近上位	全事業所
2. 1に加えて、シミュレーションを行い、対策に活用している			22%
1. 各ラック毎の吸込口等の温度把握を行っている			37%
0. 把握していない			41%



No.26 照明【高効率照明器具の導入】

ベース照明について、高効率化しているか

	貴事業所	直近上位	全事業所
4. 80%以上でLED化			44%
3. 50%以上でLED化			4%
2. 80%以上でHf化			44%
1. 高効率化していないが、オーナーに提案			4%
0. 高効率化していない又は把握していない			4%



No.27 空調【高効率空調機の導入】

高効率パッケージ形空調機（ビル用マルチエアコン等）を、パッケージ形空調機総冷却能力に対して、どの程度の割合で導入しているか

	貴事業所	直近上位	全事業所
3. 概ね100%導入			51%
2. 80%以上導入			7%
1. 50%以上導入			7%
0. 50%未満又は把握していない			4%
該当無. パッケージ形空調機を使用していない			30%



No.28 空調【その他設備導入】

高発熱領域に対して局所冷房設備を導入しているか

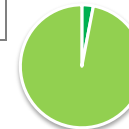
	貴事業所	直近上位	全事業所
1. 導入している			0%
0. 導入していない			100%



No.29 空調【その他設備導入】

外気冷房システムを導入しているか
(取入外気量が設計外気量の1.2倍以上の場合に限る)

	貴事業所	直近上位	全事業所
1. 導入している			3%
0. 導入していない			96%



No.30 その他【整理整頓】

サーバールーム内の定期的な整理整頓を行っているか

[取組例]: 通気の妨げとなっているダンボール等がないか点検、ラック内に置かれている不要なものを廃棄、冷風の効率を上げるために床下清掃を実施

	貴事業所	直近上位	全事業所
2. 取組例の複数（2つ以上）を行っている			81%
1. 取組例の1つを行っている			11%
0. 行っていない			7%



★サーバールーム（自社・顧客エリア共通）対策の傾向

No.30(サーバールーム内の定期的な整理整頓)について、80%以上の事業所が実施しています。No.23(エネルギー使用量の把握)、No.24(PUEの把握)について、60%以上の事業所が実施しています。